

問 入江晶子委員

令和2年度における医師の退職と採用の状況はどうか。

また、今後の定年退職の見通しはどうか。退職後もスキルフルドクターとして県立病院に残ってくれる医師はどれくらいいるのか。

答 伊能経営管理課長

令和2年度における正規職員医師の採用は27名、退職は23名である。令和3年度の定年退職の見込みは5名であり、退職後のスキルフルドクターとしての採用については、今後、退職予定者の意向を踏まえ、働きかけを行っていく。

問 入江晶子委員

スキルフルドクターは現在何名いるのか。

また、各病院における常勤医師の不足の状況とその影響はどのようなもので、それらに対する令和2年度における対応状況はどうか。

答 伊能経営管理課長

スキルフルドクターの在籍状況は、現在5名である。

常勤医師の不足の状況と影響について、県立病院においては、全般的に麻酔科医が不足しており、地域医療を行う循環器病センターや佐原病院では、一般診療科の常勤医が不足している。循環器病センターでは、整形外科が平成21年4月から入院を休診、眼科が平成22年4月から入院を休診、佐原病院では産科が平成18年4月から入院・外来とも休診、小児科が平成18年4月から、婦人科が平成18年4月から、眼科が平成26年9月から、耳鼻咽喉科が平成31年4月から、それぞれ入院を休診している。このほか、こども病院においては周産期医療において、平成28年7月以降、産科医不在のため、分娩を休止している。このような状況のため、千葉大学をはじめとする大学医局への医師派遣の要請により、常勤医の確保に向けた取り組みを行った。

問 入江晶子委員

パート医師の雇用数が多い佐原病院、循環器病センター、こども病院について、どのような医療機関の協力を得て、常勤医師不足をカバーしているのか。また、常勤医師の確保ができない障壁は何か。

答 伊能経営管理課長

それぞれの県立病院において、主に大学病院の医局からの派遣になるが、そのほかに民間病院、民間人材紹介会社等を通じて採用している。常勤医が確保できない理由としては、麻酔科医及び産科医は全国的に医師が少ないという状況であり、また、循環器病センターや佐原病院については、地理的な条件などによるものもあると考えている。

問 入江晶子委員

全国的な麻酔科医不足や地理的な不利は、何年経っても状況が変わることは

ないと思われる。病院の現場の実情に応じて、不足している医師をどのようにすれば確保できるのか、もっと踏み込んだ制度の改善、障壁の撤廃など新たな方策が必要と考える。

本日、現場の病院長が出席しているので、現場サイドから見て、パート医師を減らして常勤医を増やすために、どのように雇用条件等を改善する必要があるかなどを、特に、先ほど申し上げた佐原病院、循環器病センター、こども病院にお聞きしたい。

答 佐原病院田中副病院長

佐原病院の地理的な特徴としては、遠隔地であることがあげられる。高速道路網の発達によって、時間的な制約は少なくなっているが、交通費の自費負担が生じることもあり、雇用条件としては厳しい状況である。雇用の改善に関して考えられるのは、大学病院や、国立病院などでは行われている半日程度の外勤が可能となれば、雇用条件の改善になると思われるが、現状では難しい状況であると考えている。

答 循環器病センター岡嶋病院長

当院は、地理的条件はもちろんあるが、脳卒中診療が機能低下の状況に陥った理由として、千葉大学医局の人事が大きく影響している。その代わりに現在ではんかんの拠点病院となっている。脳神経系の脳卒中診療体制の確保に向けて、千葉大学医局へ依頼を行ってはいるが、体制確保が叶わないのが現状である。引き続き千葉大学医局へ働きかけを行うと共に、私立大学に対しても依頼を行っているため、多方面から医師の獲得に向けて引き続き取り組んでまいりたい。

答 こども病院星岡病院長

こども病院は比較的医師の確保に恵まれているが、麻酔科、産科の医師不足が課題である。両科とも関東地区全体で医師が不足している。千葉大学医局のほかに都内や横浜の医局とも相談しながら進めている。

問 入江晶子委員

医師の確保に係る課題を病院長にお聞きしたが、交通費など、今の制度の枠組みの中で改善できるのではないかと感じた。

他の公立病院等では週に1回、半日、他の医療機関にパート・アルバイトに行くことで収入の確保に繋げているという話もある。

来年度、医師の確保に向けてどのように取り組んでいくのか。

答 伊能経営管理課長

公的病院のアルバイトの状況について詳細は把握していないが、県立病院の常勤医師は地方公務員法で兼業が禁止されているため、現状の制度の中では認めることが困難であると考えている。医師の雇用条件は医師確保における重要

な要素であると認識しており、これまでも地方公営企業法の枠組みの中で給与の改善等を進めてきたところであり、今後も各病院の医師の勤務実態を踏まえ、各病院の意見を伺いながら、常勤医師の確保に向け現行の地方公務員制度の中でどのような対応ができるか検討してまいりたい。

問 入江晶子委員

ぜひ積極的かつ速やかに検討していただきたい。

特に交通費の支給については、手当として支給できるのではないかと。

答 伊能経営管理課長

手当の取扱いも含め、検討してまいりたい。

問 入江晶子委員

臨床研修医の過去3年間の募集・採用の状況はどうか。

答 伊能経営管理課長

臨床研修医の過去3年間の募集・採用状況については、募集はいずれの年度も13名であり、採用は令和元年度が12名、2年度が13名、3年度が12名である。

問 入江晶子委員

臨床研修医は、ほぼ確保できているということで、よい傾向だと思う。

レジデント医の募集・採用について、令和2年度を含む直近3年間における状況はどうか。基本領域とサブスペシヤルティ領域それぞれで聞きたい。

答 伊能経営管理課長

レジデント医の募集・採用状況については、令和元年度が「基本領域」で、募集20名、採用2名、「サブスペシヤルティ領域」で、募集は若干名、採用2名、令和2年度が、「基本領域」で、募集24名、採用5名、「サブスペシヤルティ領域」で、募集は若干名、採用4名、令和3年度が、「基本領域」で、募集24名、採用5名、「サブスペシヤルティ領域」で、募集は若干名、採用10名となっている。

レジデント医の応募状況であるが、令和元年度は基本領域では、小児科、放射線科がそれぞれ1名、サブスペシヤルティ領域では、小児神経科、小児循環器科がそれぞれ1名、令和2年度は基本領域では、精神科3名、救急科2名、サブスペシヤルティ領域では、消化器内科、心臓血管外科、小児内分泌科、小児神経科、小児血液・腫瘍科がそれぞれ1名、令和3年度は基本領域では、精神科2名、リハビリテーション科3名、サブスペシヤルティ領域では、消化器内科1名、乳腺外科1名、小児内分泌科1名、小児感染症科1名、小児神経科2名、小児循環器科3名、新生児・未熟児科1名となっている。

問 入江晶子委員

レジデント医の応募が非常に少ないと思われる。

総合診療専門医プログラムへの応募がない点についての検証と対策はどうか。

県内他医療機関でのプログラムの応募状況を踏まえた検証はどうか。

また、内科・外科のサブスペシャリティ領域プログラムへの応募者を増やすため、どのような取り組みを行っていくのか。

答 伊能経営管理課長

まず、総合診療科については、これまで応募がないが、PR不足が一因であると考えられる。総合診療レジデント医を採用している他の医療機関の取り組みを参考にしながら、総合診療の研修病院である循環器病センターや佐原病院と連携して、レジデント医の確保に取り組んでまいりたい。

また、令和2年度から内科レジデントの受入のため、新たに君津中央病院と千葉労災病院の連携施設となり、また、本年度から各募集科目のプログラム責任者等で構成される「レジデントプログラム管理委員会」を立ち上げ、県立病院群として募集可能な科目の洗い出しを行い、令和4年度生向けに、内科のサブスペシャリティ領域に「消化器内視鏡」を追加した。

今後も、各病院と連携し、専門性や地域性など病院の特徴を生かした魅力あるプログラムを整備するとともに、指導体制の強化を図り、研修環境を充実させ、それをPRすることで、応募者の増加に繋げていきたい。

要望 入江晶子委員

ぜひ、来年度決算までに成果を出していただきたい。佐原病院や循環器病センターで医師を確保していくためにも、総合診療専門医は必要な医師であり、千葉県立病院として本腰を入れて医師の確保・養成に努めていただきたい。